



## ■ 聖路加看護学会ニュースレター

第16号 平成16年11月10日 2004.11.10 No.16

過去のニュースレター

## ■ 目次

第9回聖路加看護学会学術大会を終えて

平野かよ子(国立保健医療科学院)

第9回聖路加看護学会学術大会を振り返って

福島富士子(国立保健医療科学院)

第9回聖路加看護学会学術大会の報告

- プログラム
- 座長・司会者のメモから
- 一言メッセージ
- 総会の焦点

第10回聖路加看護学会学術大会に向けて

小澤道子(聖路加看護大学)

第10回学術大会ご案内(第1報)

お知らせ

- 学術交流委員会
- 学会誌編集委員会
- 庶務
- 会計

編集後記

## ■ 内容

### 第9回聖路加看護学会学術大会を終えて

平野かよ子(国立保健医療科学院)

実践の“智”を築くをメインテーマとした、第9回聖路加看護学術大会を聖路加看護大学等の職員及び学生のみなさんの多大な協力を頂き、無事終了することができました。

会長講演は「保健活動の表出」の題で、会長が保健活動をライフワークとするに至った経緯と、保健活動が人々の生活を扱い、保健師は日常性が持つ論理に絡め取られ、そこでつかんだ、あるいはつかまされる実践の智の宝庫にあることを生かし、新たな智の体系のあり方を模索していきたいといった主旨のお話をさせていただきました。

演題は全体で17題でした。数としては多いものではありませんでしたが、一題一題に十分な時間を取ることができ、聴衆とのやり取りもできたと思います。

特別講演は漫画家のちばてつやさんが、「漫画で描く人々の生きる姿」ということで、ご自分の漫画家になる経緯、漫画を描く

には日頃の生活の観察と人々の生き方についての想像力が大切であること、文字に絵を添えることで、わかりやすさと温かみが伝わり、人を和ませること等をお話くださいました。描いて欲しい看護状況についてリクエストしてもらい、その場でOHPに実際に描いて下さるやりとりのある楽しい講演を頂きました。

最後のシンポジストは、伝えたい実践の“智”ということで、看護師の立場からは日本赤十字看護大学の川嶋みどり先生、助産師の立場からは北里大学大学院の佐藤香代さん、保健師の立場からは栃木県鹿沼市の斎藤真理子さん、国際保健の立場から在ケニアで活動中の近藤優子さんにお話いただきました。川嶋先生は臨床の看護技術が患者さんを生き生きとさせること、美しく効果的な看護の技をみがくこと、佐藤さんはお産を見守ることで女性が自分の体に向き合い、体の持つ力を実感できること、斎藤さんは住民は自らの生活の目的が描けると、時間に意味を持たせ自分の持つ力が発揮されること、近藤さんは途上国の実態の捉え方等話されました。実践の看護の根底には相手の力を信じることもあり、力を引き出すことが看護の本質であることを会場と共有しました。全体を通して、実践の魅力について語り合える会となりました。

↑ TOP

## 第9回聖路加看護学会学術大会を振り返って

福島富士子(国立保健医療科学院)

2004年9月25日(土)に聖路加看護大学において、「実践の“智”を築く」をメインテーマに、第9回聖路加看護学会学術大会が開催されました。

会長は「保健活動の表出」と題し、生活を営む人々を援助していく技は、経験や実践のなかからこそ吸い上げられて、“智”となり、理論化・体系化していくものであることをお話しされました。その後、漫画家のちばてつや氏の特別講演、看護職4人の方による「伝えたい実践の“智”」をテーマに、日赤看護大の川嶋みどりさん、北里大学大学院の佐藤香代さん、栃木県鹿沼市の保健師、斎藤真理子さん、在ケニアで活動中の近藤優子さんによるシンポジウムと続きました。

特別講演の講師依頼に関しては、国立保健医療科学院の疫学部客員研究員である里見宏先生のお計らいによって実現されました。ちばてつや氏の講演は、漫画という看護の世界とは遠いと思われがちな世界は、実は人間に対する深い洞察力和あたたかいまなざしが不可欠であり、一人一人の人間にドラマが存在しているということを再認識させていただくことになりました。会長が司会することに加えて、公衆衛生の専門家である里見先生にナビゲーターとして参加していただきました。お二人のやりとりは、とてもなごやかで、温かい雰囲気を感じました。また、実際にちば先生がリアルタイムに会場の人からのリクエストに応じて即興でOHPにキャラクターやイラストを描いてくださり、今までにない講演形式で、新鮮で心に残るものとなりました。

今年度の参加者数は163名で、発表演題は全体で17題であり、多くはありませんでしたが、テーマは多岐にわたり、それぞれに課題を提起していただいた結果、意義深いものになりました。参加していただいた方には、有意義な時間を過ごしていただいたと自負しておりますが、もっと多くの方にこのような機会を有効に活用していただき、発表して頂くことができればよかったと振り返っております。来年からの学会においては、広報の方法に検討を加えていく必要性を感じました。

事務局が外部機関であったため、聖路加看護大学の先生方には企画の始めから細かい点にまでご配慮いただき、外部の事務局であることの不便さをほとんど感じる事がなくさせていただきました。さらに、昨年度の企画委員長である福島県立医科大学の粟生田友子さんには、遠いところから何回も会合に参加していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。また、企画委員の方々、遠いところから、また、忙しい中を企画・運営に関わってください、本当にありがとうございました。また、実行委員の皆様、ボランティアの皆様にも運営を支えていただき、心より感謝いたします。講演をいただいた方々、参加者及び聖路加看護学会の皆様のお陰で、終始温かい雰囲気と熱意に包まれて会が進行できましたことを、感謝致します。

↑ TOP

## 第9回聖路加看護学会学術大会の報告

### ●プログラム

#### 会長講演

アリス C.セントジョン メモリアルホール 9:35～10:30  
「保健活動の表出」

会長 平野 かよ子 (国立保健医療科学院)  
座長 小澤 道子 (聖路加看護大学)

#### 特別講演

アリス C.セントジョン メモリアルホール 13:50～14:50  
「漫画で描く人々の生きる姿」

講師 ちば てつや氏(漫画家)  
司会 里見 宏 (健康情報研究センター)  
平野 かよ子(国立保健医療科学院)

#### シンポジウム

アリス C.セントジョン メモリアルホール 15:10～17:10  
「伝えたい実践の智」

司会 堀内 成子 (聖路加看護大学)  
齋藤 泰子 (群馬大学)

## シンポジスト

臨床看護領域 川嶋 みどり (日本赤十字看護大学)  
助産領域 佐藤 香代 (北里大学大学院)  
公衆衛生看護領域 齋藤 真理子 (鹿沼市役所)  
国際保健領域 近藤 優子 (在ケニア)

### 一般口演

#### 【第1群】第I会場 研究発表(301講義室) 10:45～11:30

座長 有森 直子(聖路加看護大学)

1. 学生のグループワークにおける学習内容の分析  
○関 美奈子(日本赤十字看護大学大学院)
2. 高齢者の持続点滴自己抜去の実態調査  
○奥山 和子 (藤枝市立総合病院)  
鈴村 多恵子 菊池 真季 村松 伴美(藤枝市立総合病院)
3. 気象の変化(低気圧・台風)と分娩件数との関係  
○今本 久美子 (藤枝市立総合病院)  
西澤 桂子 鈴木 恵子 (藤枝市立総合病院)

#### 【第2群】第II会場 研究発表(302講義室) 10:45～11:45

座長 千田 みゆき(山梨県立大学)

4. スピリチュアルペインを訴える患者への対応について  
—看護師を対象とした意識調査—  
○三浦 愛(日本医科大学付属病院)  
織井 優貴子(宮城大学)
5. ターミナルケアに携わる看護師のストレス要因—バーンアウトとの関係—  
○小笠原 あゆみ(慈恵医科大学付属病院)  
織井 優貴子(宮城大学)
6. 大腸癌患者のQOLと心理療法(看護介入)の効果  
○織井 優貴子(宮城大学)
7. 高血圧症患者の服薬アドヒアランスに関する要因の探索  
○靄岡 雅誉 (聖路加国際病院)  
外崎 明子(聖路加看護大学)

#### 【第3群】第III会場 研究発表(402講義室) 10:45～11:45

座長 松村ちづか(埼玉県立大学)

8. 慢性血液透析導入患者の気持ちをモニターするコンピューター・インターフェースの開発  
○森田 夏実 (慶應義塾大学)
9. 在宅療養者における褥瘡の発症過程・回復過程に関わる要因  
—訪問看護記録の分析による検討—  
○馬場 琴子(元宮城大学大学院)  
齋藤 泰子(群馬大学)
10. 地域で暮らす高齢者の安全を守る看護プログラム ～第2報アクションプランの作成～  
○野地 有子 (新潟県立看護大学)
11. 基本健康診査結果と介護保険認定結果から捉える介護予防対象群の特性に関する調査  
○栗田 仁子(国立保健医療科学院)

### 示 説

#### 【第4群】第IV会場 研究発表(403講義室) 10:45～11:30

座長 川口 千鶴 (自治医科大学)

12. 「NOTES ON NURSING」にみる「Nursing」の定義を支えるキーワード  
○小澤 道子(聖路加看護大学)  
香春 知永 横山 美樹 佐居 由美 助川 尚子(聖路加看護大学)
13. 幼児にとっての「遊び」の意味と看護者のかかわり  
○三神 佳子(青梅市立総合病院)
14. 地域保健における児童虐待対策の推進についての一考察  
～児童虐待対策における保健師の意識調査から～  
○疋田 理律子 (厚生労働省看護研修研究センター)

中板 育美 (国立保健医療科学院)

【第5群】第V会場 実践報告(403講義室) 10:45～11:30

座長 秋山 正子(白十字訪問看護ステーション)

15. 在宅看護へのモチベーションを育てる  
～在宅看護学実習終了後アンケート調査からの考察～  
○野島 あけみ (昭和大学)  
塚本 恵 中田 まゆみ(昭和大学)
16. 糖尿病合併症をもつひとり暮らし高齢者における生活の調整  
—訪問看護を受けている1事例の検討—  
○富安 眞理(聖隷クリストファー大学)  
木下 幸代(聖隷クリストファー大学)
17. 訪問看護ステーションの質向上を目指した地域連携システムの構築  
—肺理学療法の技術習得と看護実践での試行を通じて—  
○中川 泉 (新潟県立看護大学)

↑ TOP

## 座長・司会者のメモから

### <会長講演>

30数年の保健活動の底流に、子ども時代の原体験が生き続けていることが伝わり、本物に触れた思いのする講演でした。また、公衆衛生看護の視点から、具体的でわかり易いお話に引き込まれるように聞き入りながら、あなたはどのような視点で看護を表出しているかという問いもしっかりいただきました。(小澤道子)

### <特別講演>

「漫画で描く人々の生きる姿」の題で、漫画家のちばてつやさんにご講演いただいた。友人であられるご近所の里見宏さんのリードで進められた。

ちばさんは聖路加病院で生まれ、終戦で大変苦労されて帰国され、その何も無い生活の中で、弟に絵を描き、話をしてあげることが、とても人を喜ばせると知ったことが漫画家となった原点とのことだった。漫画を描くには日頃の観察や読書、映画など、人々の生き様に触れることが大切で、これらは看護にも通じることではないかということをお話された。また、絵は文字よりわかりやすさと温かさを伝えられ、人を和ませる力があるとのことをお話をいただき、会場から描いて欲しいことのリクエストを伺い、OHPに描きながらのご講演で、ちばさんの温かさが伝わるひとときだった。(平野かよ子)

### <第I会場(第1群)>

I群は、看護教育、臨床(成人、助産)とバラエティに富んでいました。参加者は、20～30名くらいでしたが、今回の発表に対しての、熱気あふれる質疑が行われました。特に3題目の気圧と出産に関する演題には予測の難しい出産の予測に貢献する知見として看護管理に役立てられないか、との質問もでていました。実践の中で、「なんとなく・・・」の現象を研究として追求された3題であり、まさに今回のテーマにあった3題でした。(有森)

### <第II会場(第2群)>

スピリチュアルケア、ターミナルケアに携わる看護師のストレス、大腸癌患者へのWritingの効果、服薬アドヒアランスについての発表でした。研究の切り口はそれぞれでしたが、傾聴、コミュニケーション、文字による自己表現、患者—看護師の信頼関係の重要性が報告され、看護の原点を改めて確認する機会になったと思います。(千田みゆき)

### <第III会場(第3群)>

第3会場の様子です。4名の発表者それぞれに対して、皆様より肯定的なメッセージや好意的なアドバイスがされました。会場の雰囲気も良かったと思われます。(松村ちづか)

### <ポスターセッション(第5群)>

在宅での具体的な実践活動に対する研究発表だったので、実践に携わる人だけではなく在宅看護論実習の担当者(看護教育現場の教員)も多く参加し、質問も活発に出されました。ことに18席の訪問看護ステーションの質向上を目指した地域連携システムの構築と題して肺理学療法に関しての地域でのモデル事業を展開した新潟県立看護大学での実践研究の示唆は、ALS患者への吸引の問題等ともからみ、議論が熱心になされ有意義なセッションだった。(秋山 正子)

### <シンポジウム>

シンポジストの発表内容を受けて、看護の技わざ術を伝える新人の教育について、誰に向かって看護の実践をかたるのか、看護の黒子的なかわりもだいじなところである、等、大変活発な討議・意見交換ができた。(齋藤 泰子)



↑ TOP

## 一言メッセージ

- ・最新のトピックスを知ることができ、いつも、参考になります。（無記名）
- ・学術大会に、初めて参加させていただきました。自分の職種と異なるケースを伺わせていただき、様々な分野で、頑張っていることを教えていただきました。明日からの自分の仕事への活力となりそうです。ありがとうございました。（埼玉県、49歳、S・H）
- ・シンポジウムでの、川嶋みどりさんの実践の「智」のご体験のお話が非常に興味深かったです。時間の関係で、十分に聞くことができなかったのが残念です。（東京都、36歳、S）
- ・普通は実践「ち」の時は、「知」を使用するけれど、今回は「智」だったのに、とても興味をもっていたのですが、それぞれの字の意味する内容が、全体からもう少し明らかになればよかった。と感じました。これから自分たちで、考えていきたいと思いますというメッセージとして、お土産にします。（千葉県、51歳、N・M）
- ・ずっと思っていたこと。シンポジウムに出て、あらためて思いました。看護の原点は相手を信じること。その力を引き出し伸ばすことだと思います。（静岡県、44歳、M・S）
- ・初めて参加しましたが、大変勉強になりました。ありがとうございました。（宮城県、30代、K・B）
- ・ちばてつやさんの特別講演を聞いて、人間の生き様の多様性、人と人のかかわりの中にある情を感じました。ご自身これまでのご体験を踏まえられた内容に、思わず聞き入ってしまいました。特に、戦後の引き揚げのお話は、私の父も引き揚げ経験があるので、心に染みしました。涙が出ました。（東京、30代、Y）
- ・初めて参加させて頂きました。ちばてつやさんの講演が印象に残りました。イラストは時に人の心を和ませるものだと分かり、これからは文字だけでなく遊び心のある絵を描いて相手の気持ちをキャッチできたらと思いました。（東京都、20代、K・K）
- ・自分が今やっていることが、生活に流されてふりかえることがなかった。でも、話をきくことによって、振り返りやっていることは間違っていなかったな、と思いました。（東京都、30代、女性）
- ・シンポジウムがとても感動しました。昨夜、在宅ホスピス協会の講座で、「相手の方が種」「医療にできることは、水をまいたり、環境を整えることだけ」というお話があったのと、最後の方のご意見がむすびつきました。相手の方が力や、全てもっていて、種自体をどうこうすることはできない、黒子に徹すること、というのは共感します。エンパワーされました。ありがとうございました。（助産婦、F・H）
- ・最後のシンポジウムがよかったです。（沼津、40代、教員）

↑ TOP

## 総会の焦点

総会の焦点：発足10年の節目に、本学会の将来構想を考えたい

2004年9月25日に第9回総会が行われました。出席52名、委任状提出271名、計323名の出席者のもと総会成立、開会となりました。会則にのっとり、平野大会長を議長に選任し、議事が進められました。

はじめに1年間の理事会の経過、および各委員会、庶務、会計からの活動報告がなされました。引きつづきの審議では、2004年度会計報告、会計監査報告が承認されました。2005年度の事業計画案として、第10回学術大会の開催、学術誌第9巻の発行、ニュースレターの発行、会員相互の学術交流（学術交流会の開催）、評議員・役員を選挙、会員の拡充、本学会の将来構想の検討が提案されました。本学会の将来構想を検討する事業については、新たに委員会を設けて検討するという事で、すべての事業計画が承認されました。次いでこれらの事業計画を含めた予算案（将来構想の検討事業活動費は、予備費から充当する）が承認されました。続いて会則の改正案が提案されました。学会運営の現状に合わせた改正案であり、すべて承認されました。議事の最後に、第10回学術大会長に小澤道子氏（聖路加看護大学）が承認され、第11回学術大会長に木下幸代氏（聖霊クリスチャー大学）が推薦されました。その後、小澤氏から挨拶があり、総会は滞りなく終了しました。

本学会の将来構想を検討する事業は、発足から10年を迎える時期に、国内の看護・保健関連学会の数が増える中、もう一度本会のvisionを明確に打ち出し、特色ある学会づくりをめざしていくための検討をしてみてもどうかという提案でした。本学会の特色のひとつは、臨床実践を重視した研究を大切にすることにあると思われます。“聖路加”という冠に実践重視の意味を付しているのですが、看護の学術に本学会がどのように貢献しているのかが不明確だと指摘を受けることがあります。聖路加という冠はある意味において特色を現していますが、この冠が本会入会への動機につながらない、あるいは入会を制限してしまう場合があります。会員数が増大すればよいという意味ではありませんが、質の高い学術誌を発刊している本学会は、看護学のどこに焦点を当てているのか、看護学をどのように発展させたいと考えているのか、今一度、会員の皆様と見直したいと思えます。大学院での研究成果の発表の場がなかったときに発足した本学会の役割を転換させ、本学会の発展の方向性を広く考えたいと思っています。

設立10年の節目を迎えた2005年度は、まさに本会の将来を考えるよい機会であると思えます。会員の皆様、どうぞ積極的な

ご意見をお寄せ下さい。お待ちしております。

[↑ TOP](#)

---

## 聖路加看護学会第10回学術大会開催に向けて

小澤道子(聖路加看護大学)

聖路加看護学会学術大会は、10回目を迎えるときとなりました。

第1回学術大会は、1996年9月に現在の校舎の落成式の翌日に開かれました。それより2年前から、学会設立準備会が始まり、故常葉先生を中心に、飯田先生、堀内先生、羽山先生と私などが草案を練り、58人の発起人からなる設立の趣意書「聖路加看護大学の建学の精神を継承し、実践を重視する看護の学的体系化に向け、教育・実践にある人々が一体となって、看護学の発展と会員相互の学術的研鑽と学術的交流の場として聖路加看護学会を設立する」ができました。学会の事業の一つである学術大会は、第1回「建学の精神の具現化と軌跡」、第2回「実践重視の看護の創造」、第3回「実践の質を高める看護教育を求めて」、第4回「ユニフィケーションの方向性を探って」、第5回「在宅看護の源流と未来」、第6回「『からだ』のわかる看護の探求」、第7回「看護と文学」、第8回「看護の“知”と哲学的基盤」、そして第9回「実践の“智”を築く」と続けました。学会の目指すものに向けて毎回の努力と工夫の蓄積は、羅針盤の針を安定化させてきたことを、皆様と共に感謝し、喜びたいと思います。

人の発達に倣えば、10歳になった子どもは、自分の将来像に希望を持ち、また、児童会を組織して良い小学校づくりに真剣に取り組み、しばしばそのユニークな発想と実行力に明るい未来を感じます。

発達は、変化の体験であり、しかも予想を超えた何かに「変化」しつつある自分を知るという驚きの体験でもあります。9回の総会において、学会の将来構想を考えていく提案が承認されました。10年を一区切りと考え、10年目の学術大会は、これまでの過去を受けながら、今どこにいて、これからどのようにいきたいかを中心に考える「時」と「場」にしたいと願います。それゆえ、学会を生きものとして、主題テーマを「生涯発達と看護」とし、遠くの未来に目を向けることと、明瞭に「今ここ」に最善を尽くすことに努めたいと思います。開催日は、2005年9月24日〔土〕で、場所は聖路加看護大学です。詳細は、追ってお知らせいたします。

10年目の学術大会の抱負をお伝えし、会員皆様からの厚いご支援とご協力をお願い申し上げます。

[↑ TOP](#)

---

## 第10回学術大会ご案内(第1報)

日 時:

2005年9月24日(土)

会 場:

聖路加看護大学

メインテーマ:

「生涯発達と看護」

プログラム(予定):

会長講演、特別講演(日野原重明氏)、シンポジウム、演題発表、など

演題締切:

2004年5月20日(必着)

「第10回聖路加看護学会学術大会演題申し込み書」と抄録原稿(A4サイズ、1600字程度)を同時に、大会事務局まで郵送して下さい。詳細は、学術大会のページをご覧ください。

第2報は次回ニュースレターで行います。

大会事務局 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学 基礎看護学

第10回聖路加看護学会学術大会事務局

FAX 03-5550-2253

[↑ TOP](#)

---

## お知らせ

【学術交流委員会からのお知らせ】

平成17年度学術交流委員会開催パネルディスカッション

テーマ: 発展していく専門看護師の役割

日時: 2005年5月28日(土) 13:00-15:30

場所: 聖路加看護大学

パネリスト: 濱口恵子(癌研病院)、  
馬庭恭子(YMCA訪問看護ステーション・ピース)

主旨: 聖路加看護大学を修了した第一号の専門看護師(CNS)が誕生してから9年がたち、少しずつその活躍の場が広がるようになりました。そこで今回は、専門看護師としてまた同時に他の役割ももちながら活躍している方々の中からお話を伺い、いま専門看護師が直面している課題はなにか、また今後の専門看護師の役割の展望について、皆様と共に考えたいと企画しました。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学術交流委員会 太田喜久子(委員長)、秋山正子、鶴田恵子  
中村めぐみ、野崎真奈美、横山美樹

#### 【聖路加看護学会学会誌編集委員会から】

学会誌編集委員会では、現在投稿規程の再検討を行っています。より多くの学会誌にするために、会員の皆様からのご投稿ならびにご意見をお待ちしています。尚、次回の学会誌発行(2005年6月末発行予定)に関する原稿の締め切りは、2005年1月31日です。

#### 【庶務からのお知らせ】

- 学会事務は本学2号館へ移転しました。電話番号・FAX番号に変更はありません。
- 第9回総会で、本学会の将来構想を検討する事業が承認され、検討会が発足することになりました。どうぞ御意見をお寄せください。
- 2005年5月に役員選挙が行われます。選挙権の確認のため、2005年4月末までに会費納入をお願いいたします。また住所等に変更のある方は、FAXで庶務まで御連絡ください。

(佐藤エキ子、松谷美和子、亀井智子)

#### 【会計からのお知らせ】

2005年度の活動が2004年10月1日より開始しました。本年度の年会費納入をよろしくお願ひ申し上げます。前年度までの分が未納の方は、併せてよろしくお願ひ致します。既に会員の方は、年会費のみ(¥5,000)納入してください。

振込先: 郵便振替口座 00100-8-670371

加入者名: 聖路加看護学会

年会費: ¥5,000

[↑ TOP](#)

#### 編集後記

第9回学術大会の様をお知らせしました。実践の“智”の一端を感じていただけましたでしょうか。ニュースレターへのご意見・感想をお待ちしています。(ニュースレター委員会)

[↑ TOP](#)

[▲ ページトップへ](#)

[学会について](#) | [入会案内](#) | [お問合せ](#) | [よくある質問](#) | [学術大会](#) | [ニュースレター](#) | [学会誌](#)

St. Luke's Society for Nursing Research | [サイトマップ](#)